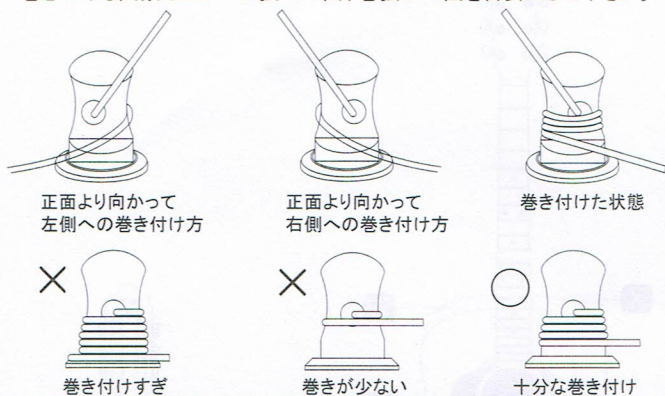


II. 弦の巻き方

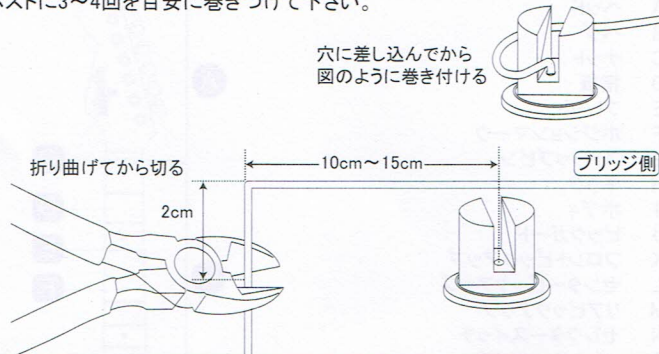
エレキ、アコースティックの場合

糸巻きのストリングポストに内側から外側に向かって弦を巻きつけます。巻きつける回数はブレイク弦4〜6回、巻弦2〜3回を目安にしてください。



ベースの場合

ベース用の糸巻きにはポスト中心部分に弦を差し込む穴が開いています。ブリッジから弦を伸ばした状態で糸巻きより10cm〜15cmの所で折り曲げ折り目から2cm程先で切ってください。先端部分を穴に差し込み、そこからポストに3〜4回を目安に巻きつけて下さい。



III. チューニング

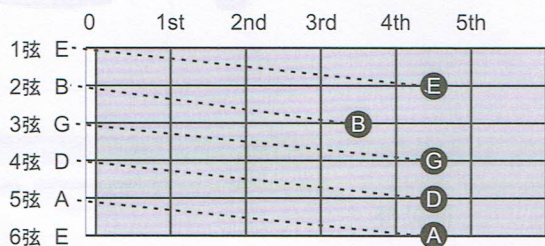
チューニングには様々な方法がありますが、チューナー、ピッチパイプ、音叉を使った方法が一般的です。まずは、ギターの5弦(ベースは3弦)の開放音をチューナー等でA440Hz(ラの音)に合わせます。そこから下図のように各弦を合わせて下さい。

チューニング実音

ギター

最初にギターの第5弦の開放音をA440Hzに音叉等で合わせます。

- ①第5弦の開放音と第6弦の第5フレット音を合わせる
- ②第4弦の開放音と第5弦の第5フレット音を合わせる
- ③第3弦の開放音と第4弦の第5フレット音を合わせる
- ④第2弦の開放音と第3弦の第4フレット音を合わせる
- ⑤第1弦の開放音と第2弦の第5フレット音を合わせる

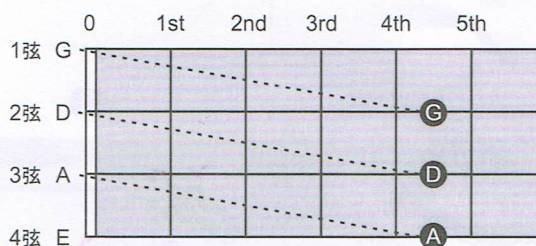


ベース

4弦ベースはギターの3〜6弦の1オクターブ下になりますので、合わせ方は次のようになります。

最初にベースの第3弦の開放音をA440Hzに音叉等で合わせます。

- ①第3弦の開放音と第4弦の第5フレット音を合わせる
- ②第2弦の開放音と第3弦の第5フレット音を合わせる
- ③第1弦の開放音と第2弦の第5フレット音を合わせる

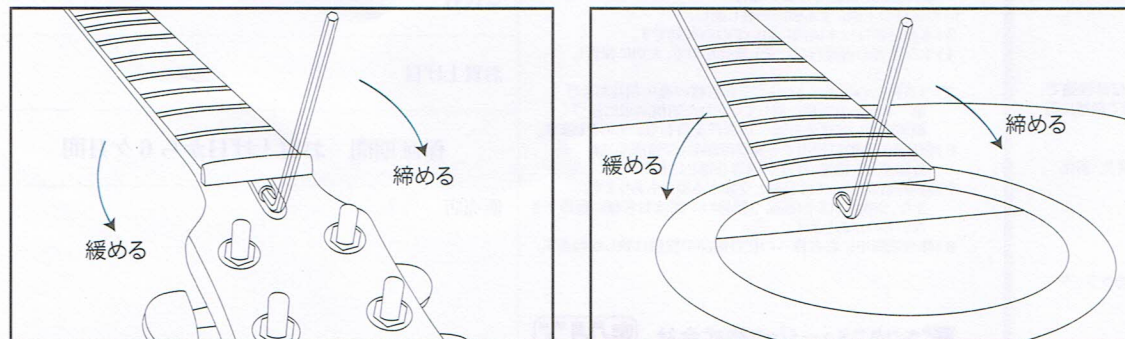


IV. ネック調整

ギターの調整にはギターに関する専門的な知識が必要です。慎重に行いましょう。無理な調整による本体の破損は保証対象外となる場合がございますので、ご注意ください。ネックの状態をチェックするには、まず、全ての弦をチューニングしてから行いましょう。ネックが弦の張力に負けて弓のように反っている状態を順反り、反対に反っている状態を逆反りと言います。



どちらの場合もネック内部に埋め込まれているトラスロッドを締めたり緩めたりして調整をします。



トラスロッドの調整を行う場合にはまず弦を緩めます。順反りの場合にはトラスロッドを締め、逆反りの場合には緩めます。

また、トラスロッドの調整位置はモデルによって異なります。ご確認後、付属のレンチで調整して下さい。調整の際には、しっかりとレンチを差し込んで、トラスロッドのナットを潰さないように気をつけて下さい。クラシックギターはトラスロッドが入っておりませんので、専門のショップにご相談下さい。